

事務事業名		プロイラー価格安定基金造成事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目				
	施策名	20 産地化をめざした農林業の振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 農業経営の安定化			☐ 単年度のみ		01	06	01	04	05
所 属	根拠法令				☒ 単年度繰返 (開始 平成12 年度 ~)						
	部課名	農林水産部 農林課			☐ 期間限定複数年度 【計画期間】						
	係 名	農政係	電話	27-3111	年度 ~ 年度						
			内線	344	全体計画欄の総投入量を記入						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)											
・畜産振興に係る団体「岩手県プロイラー事業協同組合」に補助金を交付する事業。毎年1羽当たりの最低価格(前年度の全国平均価格を参考に設定、平成22年度は1羽510円)を県内の畜産全部門を統括している岩手県畜産協会で決定し、県の市場価格がこれを下回った場合には、プロイラー農家へ差額を助成することで、プロイラー農家の経営を安定化させることに寄与している。プロイラー価格安定基金は県の畜産協会でとりまとめており、プロイラー農家、農協、プロイラー農家がある市町村、県が基金を積み立てている。本事業は市町村負担となる基金積立金を市内の出荷羽数にしたがって補助する事業。											
・主な業務は、市内プロイラー農家の出荷計画羽数を協同組合でとりまとめて市へ提出、事業承認、完了届の提出受領、補助金交付。											
・事業費は、岩手県プロイラー事業協同組合への補助金として支出される。1羽あたり5円を積み立てており、生産者が8分の3、協同組合が8分の3.5、県が8分の1、市が8分の0.5を負担している。											
全体計画(期間限定複数年度のみ)											
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金								
			都道府県支出金								
			地方債								
			その他								
			一般財源								
	事業費計(A)		0								
	人件費	正規職員従事人数									
延べ業務時間											
人件費計(B)		0									
トータルコスト(A)+(B)			0								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標	
手段(主な活動)	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称 単位
市内プロイラー農家の出荷計画羽数を協同組合でとりまとめて市へ提出、補助金交付。	ア 補助対象羽数 万羽
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ
前年度と同様。	ウ
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	対象指標(対象の大きさを表す指標)
市内でプロイラーを飼育する畜産農家	名称 単位
	カ プロイラー農家数 戸
	キ プロイラー農場数 農場
	ク
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)
最低価格を下回った差額を補填することで、農家の損失を減らす。	名称 単位
	サ 本市への基金補填金額 千円
	シ 生産羽数の対前年度割合 %
	ス
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	
農産物が安定して高く売れる。	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	647	643	644	530	654	642	
		事業費計 (A)	千 円	647	643	644	530	654	642	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	20	20	20	20	20	20	
		人件費計 (B)	千 円	80	80	80	80	80	80	
		トータルコスト(A) + (B)	千 円	727	723	724	610	734	722	
活動指標			ア	万羽	207	206	206	204	209	206
			イ							
			ウ							
対象指標			カ	戸	6	6	6	6	6	6
			キ	農場	7	7	7	7	6	7
			ク							
成果指標			サ	千円	6,953	7,000	10,310	10,220	10,450	10,260
			シ	%	100.0	99.4	100.0	100.0	102.5	98.6
			ス							

事務事業ID	0520	事務事業名	プロイラー価格安定基金造成事業
--------	------	-------	-----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

輸入鶏肉の急増による市場価格の低迷や景気停滞と高病原性鳥インフルエンザの風評被害による消費の落ち込み、さらには、飼料価格の変動等の厳しい経営環境のなか、プロイラー生産農家の経営安定と計画生産を図ることを目的として、平成11年度から岩手県、平成12年度から市が加わり、本事業が開始された。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

国内外で高病原性鳥インフルエンザの相次ぐ発生による風評被害により、度々価格の低迷が起こっている状況である。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

特になし

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] ・プロイラーの生産は市内農業粗生産額の66% (H17)を占め、市内農業の根幹をなすものであり、プロイラー農家の経営安定化が図られることにより、市の農業振興に結びつく。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] ・岩手県プロイラー事業協同組合への補助金で、生産者が8分の3、協同組合が8分の3.5、県が8分の1、市が8分の0.5と負担が定まっている。畜産事業の振興を図るうえで、市の関与は妥当。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] プロイラー農家に価格下落分の補填する事業であることから、対象、意図とも妥当である。
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] ・現在の枠組みで、畜産農家の経営安定のための十分な成果をあげている。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] ・生産者が8分の3、協同組合が8分の3.5、県が8分の1、市が8分の0.5と負担が定まっているため、市独自で補助を廃止、休止することはできない。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] ・類似事業はなく、統廃合や連携はできない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] ・事業費は、1羽あたり0.3125円(市負担分は5円×8分の0.5)×出荷羽数で必然的に定まる。市独自で事業費の削減を図ることはできない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] ・助成金支出事務にかかる担当者の人件費のみであり、削減できない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] ・生産者が8分の3、協同組合が8分の3.5、県が8分の1、市が8分の0.5と負担割合が定まっている。応分の受益者を伴っており、適正である。

事務事業ID	0520	事務事業名	プロイラー価格安定基金造成事業
--------	------	-------	-----------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 当市農業産出額の2/3を占めるプロイラー部門である。 本事業による価格安定基金造成は必要であり、適切な事業運営となっている。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 継続して事業を実施する。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	農林課長
-------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務執行がなされている。										
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおり継続して事業を実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1)行政経営推進会議等での指摘事項
